

## 群馬にサルがあらわれ始めたころ

### 一人里にあらわれはじめたころの生態・今の生態から読み解くサル対策

碓氷峠自然観察所・長野県短期大学

教授 上原 貴夫

群馬県において今日に続く猿害といえる状態があらわれるのは昭和 50 年代の末からである。もちろん猿害に限らず野生鳥獣の被害はそれ以前にも野兎はじめ各種の野生鳥獣による被害が発生している。

群馬県では当時の下仁田町、妙義町、松井田町などにおよぶ妙義山系、霧積山系を主な地域として猿害が報告されている。このころ、この地域一帯について分布調査をした。その後、1年おきに全県の市町村を対象としたアンケートによる調査を継続して実施している。

#### 1. 現状

- 現在も拡大傾向にある。
- 農林被害中心から、生活被害にまでおよんできている。

#### 2. ニホンザルの特性から見た進出の読み取り方

##### 1) 進出のステップ

- 進出については、必ず兆候がある。
- 進出の主なステップ　ハナレで遊動→小集団→群れによる進出

##### 2) 進出を予測する

- 進出個体に注目する。
  - ・大きく、年老いた個体を見かける・・・ハナレの場合が多い
  - ・子ザルを見かける・・・群れがいると考える
  - ・メスを見かける・・・群れがいると考える
  - ・若ザルを見かける・・・小集団の予想、いずれ進出してくるか。
- 野生鳥獣の動きは、「動物の特性・その時の動向と人間生活との関係」に応じる。

#### 3. 予防に向けて

進出を予測するための生息分布・進出動向の読み取り方

(2009. 上原。日本心理学会発表)

- ①生理的分布：本来の分布
- ②生態的分布：地域や現状など、実状に合わせた分布
- ③潜在的分布：今後、生息できる分布

\* 「①と②を踏まえて③を考えることがポイント。」

#### 4. 対 策

- ・ 早期発見・早期対応
- ・ 野生鳥獣の動きを、小さなものであっても見逃さない。
- ・ 動物の特性にあった対策（知識・技術）
- ・ 地域の活性化が必要。

#### 5. まとめ

- ・ 地元の人（地域住民の方々）が大事。
- ・ 野生鳥獣についての認識・知識を生活感覚に取り込む。
- ・ 対策には調査が大切。調査を通じた知識の普及。

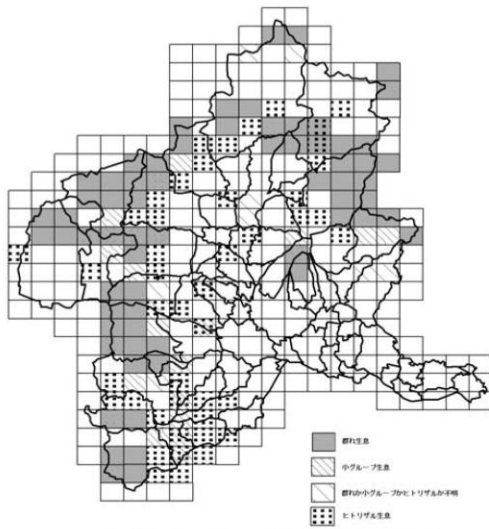


図1 1970年（昭和45年）～1976年（昭和51年）サル分布域（常田ら，1978を改変）。

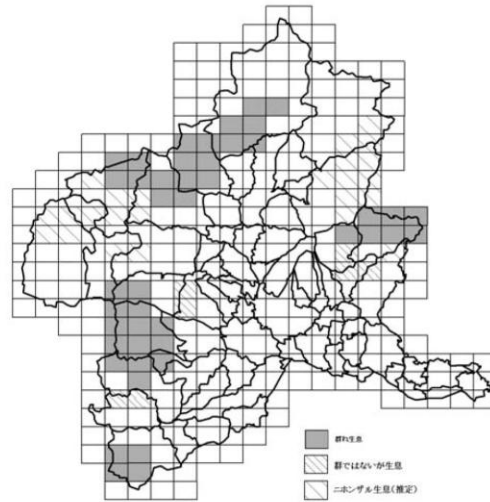


図2 1989年（平成元年）サル分布域。

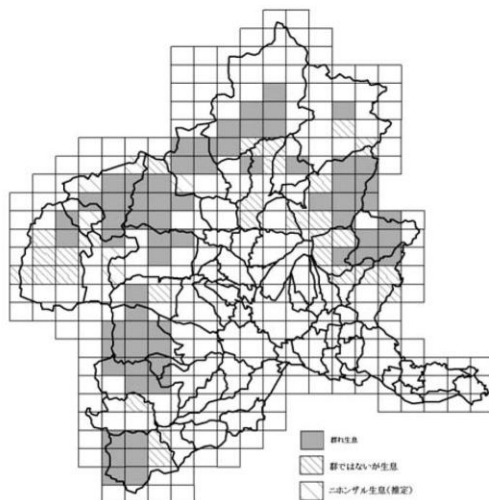


図3 1999年（平成11年）サル分布域。

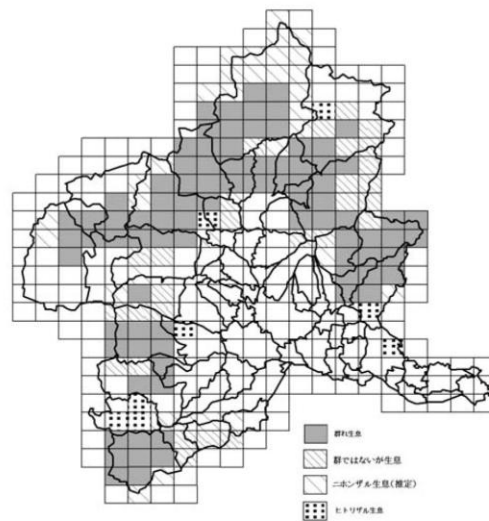


図4 2007年（平成19年）サル分布域。